

牧之原市・御前崎市の視察報告

日 程	11月24日(金)～11月25日(土)
視察場所	1日目 静岡県牧之原市 市役所 2日目 静岡県御前崎市 大産業まつり
視察参加者	岩口友雄・市川信幸・大島正光・小平一博・北沢幸保・原敏明・木下啓爾 三浦喜久夫・佐々木昌・小川修・河合隆俊・齋藤天・本島未来
視察内容及び概要	<p>視察地：牧之原市</p> <p>目 的：「対話による協働のまちづくり」について</p> <p>概 要：</p> <ul style="list-style-type: none">● H17 相良町と榛原町とが合併して牧之原市が誕生。「フォーラムまきのほら」を開設し、その後の、地区別男女協働サロンや自治基本条例制定などを主導した。● H19 地域課題の解決には市民が主役。市民ファシリテーターの養成開始⇒ファシリテーターは、対話による協働のまちづくりの推進、ワークショップ形式などの会議の運営を担う。⇒実践の場として各地区で「男女協働サロン」を開催。サロンは「自分ばかり話さない」「頭から否定しない」「楽しい雰囲気を大切にする」をルールとしている。● H23 「牧之原市自治基本条例」を制定。①情報の共有 ②市民参加の推進 ③市政運営を3本柱としている。● H24 市内の10小学校区ごとに「地区自治推進協議会」「自治会地区長会」発足。⇒対話による協働のまちづくり開始⇒実践のワークショップでは、①計画策定(津波防災まちづくり計画、総合計画、総合管理計画、学校再編計画)②地域づくり(地域の絆づくり)③次世代育成(地域リーダー育成プロジェクト)を行っている。● H26 「牧之原市政への市民参加に関する条例」を制定。市から各地区にワークショップのテーマと参加人数の要請が行なわれる。● H27 高校生を対象とした人材育成事業がスタート。目的：①地域に誇りを持つ ②将来、地域を担う ③地域の課題解決に貢献する● H29 「牧之原市まちづくりファシリテーター設置要綱」を制定。現在、ファシリテーター70名、高校生ファシリテーター43名が活動している。団体：(一社団) Musubi、(任意団) CLIP が立ち上がる。 Musubi：津波防災計画、学校再編計画、L2 津波対策のWS、総合計画、市政に関わる案件を担う。 CLIP：地域リーダー育成プロジェクト、保育園等施設マネに係る意見交換等を担う。

まとめ： 牧之原市の「市民参加と協働」の実践を学ぶことができた。

- ① 地域課題の解決には市民が主役となって取り組んでいること。
 - ② 地区ごとに「男女協働サロン」を開催し、会議の運営は市民のファシリテーターが行なっていること。
 - ③ 高校生を対象とした人材育成事業に力を入れていること。
- このような活動の中から、市の職員や市議会議員が誕生していること。など、当町で「まちづくり基本条例」を実践していくために必要な、示唆に富んだ視察を行うことができた。



視察地： 御前崎市 大産業まつり

目的： 友好都市との交流

概要：

- 御前崎市の産業や文化を紹介する第 17 回大産業まつりが、市役所周辺の駐車場や広場を会場として開かれていた。約 100 団体のブースが並び、多くの来場者でにぎわっていた。6 年前と違い大型のイベントテントはなく、2 人の女性司会者が、ブースを訪れてブースの紹介していた。
- 「友好都市の長野県高森町や山梨県中央市、甲斐市による特産品販売は今年も人気を集め、格安のリンゴなどを買求める列ができた。」と新聞に書かれるくらい、高森町のブースには長蛇の列ができていた。議員は、会場のブースの見学と高森のりんご販売のお手伝いをさせていただいた。

まとめ：

- 商工観光課内にあるイベント実行委員会には、出店（展）者も入っていると聞きし、高森も参考にすると良いと感じた。
- 2022 年から、高森町のブースは東側の駐車場の北側に移り駐車場一杯に列が出来るようになっていた。
- りんごは、9 時 30 分から 1 時間足らずで 1 日目の分を完売したが、王林とシナノゴールドは難しかった。生産者の代表や、それぞれの魅力を案内できる方が必要ではと感じた。

